

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育目標に基づいたディプロマ・ポリシーを策定（設定）する。	→ディプロマ・ポリシーの明示・公開（2011年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載]）。	B	A			
2. ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを策定（設定）する。	→カリキュラム・ポリシーの明示・公開（2012年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載]）。	C	B			
3. ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえて「履修モデル」を学生へ提示し、検証する。	→「履修モデル」の提示・公開と検証（2012年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載]）。	B	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.1.1	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(学位授与方針) 1. 神学を学ぶための基礎力を修得している 2. 大学生に相応しい基礎力を修得している 3. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理・思想、実践の基本的知識を修得している 4. キリスト教文化、諸宗教について基本的知識を修得している 5. 大学生に相応しいコミュニケーションができる 6. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者としての知識を修得している 7. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい技能をもっている 8. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい関心をもっている 9. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理・思想、実践、文化、諸宗教のいずれかについて発展的知識を修得している 10. キリスト教神学についてのレポートあるいは論文を執筆することができる 11. キリスト教を広く様々な問題のなかで捉える関心、問題意識をもっている 12. 神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心をもっている 13. 現代社会の中でキリスト教に関して専門的知識を基に必要な技能を用いて積極的に考えることができる (説明) 上記ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)は、学部WEBサイト上に公開している。また毎年度、履修指導とともに学生へ配付する『履修の手引き』(履修心得)にも掲載している。いずれもカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)との関連性に留意した明示方法としている。
★ 小項目6.1.2	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(教育課程の編成・実施方針) 1. 大学生に相応した基礎力の修得(キリスト教教育科目群/言語教育科目群/基礎教育科目群) 2. キリスト教神学に関する基礎的知識、技能、関心の修得(専門基礎科目群) 3. キリスト教伝道者としての基礎力の修得(キリスト教伝道者コース) 4. キリスト教神学に関する発展的知識、技能、関心の修得(専門専攻科目群) 5. 神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心の修得(自由履修科目群) (説明) 上記カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)は、学部WEBサイト上に公開している(2010年度)。また毎年度、履修指導とともに学生へ配付する『履修の手引き』(履修心得)にも掲載している。いずれもディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連性に留意した明示方法としている。
小項目6.1.3	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない
	(説明) 学部WEBサイト上に公開している。また各方針については、毎年度初めに学生へ配付する『履修の手引き』(履修心得)にも掲載している(2010年度)。いずれも各方針との関連性に留意した明示方法としている。 授業担当者には、FD研修会(専任/非常勤それぞれに実施)の場などで各方針についての説明を実施。シラバス作成にあたってはカリキュラム・ポリシーが、各授業の「到達目標」の要素として反映されるような記述を求めている(2011年度)。学生には、履修指導の場で各方針について説明を行っている。自身の学修内容や進捗については、それらと照らし合わせながら確認することを促している。
小項目6.1.4	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	(説明) 「履修モデル」については、各領域(旧約聖書学、新約聖書学、歴史神学、組織神学・宗教哲学、実践神学)において、すでに一定のものを策定の上、公開している(2010年度)。しかしながら、各ポリシーを踏まえたかたちで「履修モデル」を再度検討し、その過程で方針の適切性についての検証も行う予定となっている。 さらに、全学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーがすべて明示された段階で(2011年度秋学期予定)、他学部との比較において、今一度検証することも考えている。
その他	

《評価指標データ》

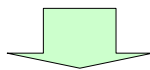
- カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
- 必修・選択ごとの開設授業科目数
- 系列別卒業必要単位数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.1.1	ディプロマ・ポリシーを策定した(2010年度)。
小項目6.1.2	カリキュラム・ポリシーを策定した(2010年度)。
★小項目6.1.3	WEBサイト上に、ディプロマ・ポリシーならびにカリキュラム・ポリシーを公開し、その関連性を含めて明示した。また学生へは年度開始時に配付の『履修の手引き』(履修心得)に記載、説明の上、履修計画の参考とするよう指導した。
小項目6.1.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

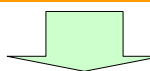
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.1.1	「履修モデル」を再検討する。その際、ディプロマおよびカリキュラム・ポリシー、ならびにそれらを関連させたカリキュラム・マップを用いて、モデルの実際性および各ポリシーとの整合性を検証する。
小項目6.1.2	「履修モデル」を再検討する。その際、ディプロマおよびカリキュラム・ポリシー、ならびにそれらを関連させたカリキュラム・マップを用いて、モデルの実際性および各ポリシーとの整合性を検証する。
★小項目6.1.3	学生へのアンケートなどを通じて、ディプロマおよびカリキュラム・ポリシーの認知度を調査し、その結果を分析・検討する。
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○着実に進捗していると評価できます。とくに「現状の説明」は具体的で説得力があります。

【学内委員】

○ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとも、他学部在先駆けて設定および公表されており、その積極的な取り組みは大変評価できます。今後とも順調な進展を期待します。

○目標の達成に向けた取組が着実になされています。

○小項目6.1.4で、検証の有無については「している」とされていますが、説明内容からすると、まだ予定であり、考えておられる状態ということで、定期的な検証を行うには至っていないと読み取れます。

○目標にもかかわらずディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーが策定されました。学内でも率先して策定された努力は評価されます。今後は、その内容について検証を重ねていってください。

○目標2、カリキュラム・ポリシーの策定の進捗評価が「B」ですがその理由をお示してください。「A」ではない理由が判断できません。

○履修モデルの再検討も含め、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの定期的な検証が求められています。その点に注意してください。

○授業担当者にFD研修会（専任／非常勤それぞれに実施）の場などで各方針について説明を実施したり、シラバス作成にあたってカリキュラム・ポリシーが各授業の「到達目標」の要素として反映されるような記述を求めていることは評価されます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.1.1

基盤評価：「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を、理念・目的を踏まえ、設定していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.2

基盤評価：「学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.3

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2009年度設定目標2（カリキュラム・ポリシーの策定）における進捗評価「B」について、指標となる公開方法は、カリキュラム・マップともあわせ、若干検証の余地があると考えている。よって前年度から本年度の進捗としては「C」から「B」への評価に留めている。

★小項目6.1.4における現状説明について、特に教育課程の編成・実施方針については、カリキュラム研究委員会（学部）において、毎年度その適切性の検証は行っていると考えているが、「履修モデル」の再検討あるいは全学のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーが明示された段階で、検証方法についての仕組みづくりに着手することを予定している。